

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3092500077
法人名	社会福祉法人 高瀬会
事業所名	グループホーム「湯ごりの郷」
所在地	和歌山県東牟婁郡那智勝浦町湯川61 (電話) 0735-52-1121

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成21年4月16日	評価確定日	平成21年5月8日

【情報提供票より】(21年3月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成21年4月16日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 12 人, 非常勤 0 人, 常勤換算	11.25 人

(2) 建物概要

建物構造	耐火構造物鉄骨 造り		
	3 階建て	3 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	180 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(3月29日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	2 名		
年齢	平均 84.1 歳	最低	70 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	那智勝浦町立温泉病院、岸歯科医院、坂野病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設長・管理者・職員・スタッフは和やかな対応で、利用者・家族を家庭の一員として自然に迎え入れている。家族はホームに気を使う様子はなく他の利用者とも自由に歓談していて、職員も自然に笑いの場に溶け込んでいる。管理者が願う「家族に気楽にきてもらい相談出来る関係作り」が行われている。また、利用者に「元気の再生」として受身でなく与える喜びを感じてもらうため、紙芝居・ハンドベルを練習し保育所で披露している。利用者は日々の練習に意欲的に取り組む等、地域に馴染む実践が見られる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての評価である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価する事が学びにつながると、全員の意見を入れてまとめた。今回の評価結果を運営会議に報告して更に検討をする予定である。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	定期的に2ヶ月に一回開催し、利用者の生活の状況報告をしたり、家族の知らなかった一面が伝えられたり、利用者から得られない情報を貰ったり、ざっくばらんな会議にしている。意見を参考にして次回会議には、結果なども報告し改善に向けて努力している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	家族の意見、苦情、不安等、家族が運営会議に参加しているので、ホームのみで処理するのではなく、運営会議に報告し、意見を運営に反映させている。気楽に意見を出していただける関係づくりに努力している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区の運動会には、準備の段階から利用者も参加し、皆で楽しんでいる。また、散歩や買い物等で外出し、地域で孤立しない努力を続けている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域で住み慣れた生活を支援して行くことを目的とした、「笑顔のあふれるホームづくり」と言う理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員共に、申し送り・カンファレンス・職員会議などで話し合いを持ち理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域ボランティアの慰問時等機会を捉え交流を深めている。また地区運動会に準備から参加したり、紙芝居を練習し保育園を訪問する等、積極的に交流の努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価に取り組んだ。外部評価は初めてなので、家族に結果を送付して意見を聞き改善を進めたいと話している。見直しの機会としても有効に活用したいと前向きに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーには地域包括支援センター・町村の福祉担当者が参加している。会議で理解し易い様に写真入のパワーポイントで報告し、会議で頂いた意見は積極的に取入れ、次回会議で結果を報告し意見を貰うようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町展への出展の相談や「湯ごりの郷」の文化祭の協力や、畑の様子を見て貰う等、共にサービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に、日頃の様子や健康状態を報告し、金銭の預かりを行っている場合は領収書を提示して説明している。定期的にお便りや請求書、行事・運営推進会議への案内を送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や行事・運営推進会議に意見をもらい運営に反映させている。毎月職員会議を持ち、普段から意見が出やすい雰囲気づくりを心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	併施設内での異動があるが、普段から交流があり行き来しているのでダメージの軽減につながっている。また利用者が退職者に手紙を出したり、退職者の訪問を受ける等ダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修の年間計画をたて新人教育を「湯ごりの郷」独自に実施したり、資格取得ができるよう積極的に取り組んでいる。法人内の研修にも参加させる等職員を育てるための環境を作っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の同事業者や近隣の事業者とは交流・意見交換など充分出来ている。福祉ソフトボール大会等の機会を捉え意見交換を行い、お互いのサービスの質向上に役立つよう関係を築いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談しながら見学や一日体験、宿泊を行い、本人が安心して利用出来る様にこころがけ、入居後も自宅外泊を容易に出来るよう希望に沿っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と共に田植えや畑などでは職員が指導される事が多く、利用者が一方的に受身の立場にならないよう、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの生い立ちから、現在に至る暮らしぶりを「自分史」として、一冊の冊子にまとめている。職員はその作成の中で、様々な思いをされてきた事を知り、またそれを読み返すことで、本人の意向の把握につとめている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意向をカンファレンスし皆で話し合いケアプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しを行っており、変更については都度本人、家族職員間で話し合い現状に合った計画を立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	複合施設の利点を活かして、デイサービスとの交流や、足湯、温泉風呂の利用など柔軟に希望に沿って支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医への受診、往診を支援し家族が行けない場合には代行している。また、法人の医師は毎週来所し、健康相談に乗っている。他の複数の協力医療機関とも連携を密にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	必要時は終末期マニュアルに沿い出来るだけ本人の希望に沿えるよう支援しているが、入所時は元気なので、説明しにくいこともあり積極的には取り組めてはいない。	○	入所時に重要事項などでターミナルケアについて説明し、情報提供や相談を行ない、早い段階から方針を共有することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを損ねる事のないよう言葉遣い、声かけに注意している。個人情報、個人記録などは外部より目が届かない様に管理し破棄する場合は、シュレッダーにかけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応予定はあるが、一人ひとりの体調ペースに合わせて、過ごせるように心がけている。散歩や入浴、趣味等、希望を可能な限り優先する様に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月利用者と献立会議を開き、食べたいものをメニューに反映させている。また、季節の食材等を取入れ職員と一緒に作り、天気の良い日は、ベランダで食事を楽しんでいる。準備・後片付けなども共にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉が好きな利用者は毎日入浴する等、希望に合わせて楽しんでいる。複合施設であるためデイサービスの足湯や大浴場等も楽しむことができる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の趣味生活歴を家族と相談しながら、したい事への支援を探っている。町展への作品作り、年三回保育所へ訪問しハンドベルを演奏するための練習等、楽しみにつながる活動を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別に行きたい場所には家族と相談し計画を立て外出している。また、畑を見に行ったり、散歩、スーパーへの買い物等の日常的な外出の機会は多く取入れている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。職員は身体拘束・鍵をかけることによる弊害を理解している。また、研修等により周知に努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で避難訓練や救命の講習を行っている。また、複合施設のため夜間対応は、施設守衛1名・ホーム1名・ケアハウス2名・小規模多機能1名の計5人の協力体制が出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調変化・摂食・水分バランス等チェックし看護師に報告して指示を受けたり、栄養士と相談して栄養バランスに対応してもらっている。また、医師とも連携し、必要に応じ相談している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはゆったりしたソファや畳の間があり、絵画、生花、手芸作品などが壁にかけられている。また、ベランダが広く、テーブル等があり季節料理などを楽しむ工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各々の居室には、額入りの、明るい雰囲気絵画が飾られ、家族の写真、手芸作品、使い慣れた小物がおかれ、心地よい居室となっている。		